

第63回

SAKURAI VIETNAM Co.,Ltd



村口社長

●事業内容

フォークリフト用部品の製造、バイク・自動車部品、工作機械販売・製造、治工具製造、他

●所在地

Plot D-2, And D-3a Thang Long Industrial Park Dong Anh District, Hanoi, Vietnam

●日本本社

静岡県浜松市東区半田町720

●ホームページ

<http://www.sakurai-net.co.jp/>

SAKURAI VIETNAM Co.,Ltdは、静岡県浜松市にある株式会社桜井製作所のベトナム現地法人として、2002年にハノイ市のタンロン I 工業団地内に設立されました。日本の桜井製作所では、主にマシニングセンターによる切部品の削加工とファクトリーオートメーション(FA)機械の製造を行っています。ベトナムではフォークリフト、自動車、オートバイの部品製作の他、農業用機械や建設用機械の製造、金型の一品生産など高度な技術を要する製品も手掛けています。今回はそんなSAKURAI VIETNAMの村口氏にお話を伺ってきました。

○ベトナム進出の経緯を教えてください。

ベトナムに進出する前にも、ブラジル、アメリカ、タイなどの様々な国で弊社の工作機械を納入してきました。そんな中、成長著しい東南アジア地域で工作機械の需要とオートバイや自動車の生産需要が高まってきたことから、お客様へのサポート体制の強化と様々なニーズにお応えする生産拠点が必要となり、2002年にベトナムのハノイ市に工場を設立することになりました。

○事業内容を教えてください。

フォークリフト、オートバイの部品の製作の他、自動車の中枢機構を担うシリンダーブロックやエンジンヘッド、トランスミッション製品などの部品加工、草狩機の部品、家庭用ガスメーターの製造など多種多様で幅広い分野の製品を作っています。また工作機械の販売・メンテナンスから機械のオーバーホールまでもおこなっており、タイなどの周辺諸国へのサポートも可能です。部品の加工については、複雑な加工が

得意分野ですが、どんな案件にも対応ができます。

日本で工作機械の製造と部品の量産の両方をやってきたことが、弊社の大きな強みで、長年に渡り蓄積してきた高い技術力とノウハウが、ベトナムでの製造にも活かされています。

○ベトナムで苦労されたことは何ですか。

ベトナム人は、管理することに対して経験が浅いため、生産計画を立てることが



大型クレーン設備



工場内の様子



精密製品検査室



工場内の様子

苦手です。弊社では、ベトナム人スタッフの技術レベルと生産管理能力の向上を目的に2002年から6年間、毎年約10名ずつ日本への研修を行ってきました。しかし当初は、日本での研修を終え、帰国してから、その経験を実際の現場で活かす前に辞めてしまう人が多く苦労しました。現在は、落ち着いていますが、2010年頃まではせつかく費用と労力を掛けて教育したにも関わらず、ベトナムの好景気時に伴い辞めてしまうといった負のサイクルが続き、大変苦労しました。

○ベトナム人社員の評価についてはいかがですか？

現在、弊社には日本人1名とベトナム人社員が約100名います。男性と女性の比率は、大体半々といったところです。ベトナム人は若い人が多いということも関係するかもしれませんが、あらゆることについて考えが浅いように思われます。例えば、あるベトナム人は、「私は仕事のことを十分に分かっている」と言うのですが、私から言わせてもらおうと10の内1つ位しか分かっていないということが時々あります。一つの仕事を深く探究することにより、様々な仕事が発生しますので、心配事が増え、「あれもなければいけない」、「あれはどうなったのか？」等、仕事に対する心配＝確認が多くなります。日本人だと当たり前のことですが、ベトナム人にはそれが理解できない人が多いと感じています。

○社員教育はどんなことをされているのでしょうか？

まず、基本的な考え方を共有することが大事だと考え、「行動指針10カ条(挨拶、掃除する、時間を守る、報・連・相する、うそをつかない、悪口を言わない、さぼらない、不正しない、物を大切に作る、ルールを守る)」を作り、毎日全員で斉唱するところから始めました。

新人社員は最初のうちは、緊張感を持って仕事に取り組んでいるので、比較的良いモノを作り出すことができます。しかし、慣れが出て緊張感が無くなると、良いモノができなくなることがあります。この「慣れ」は非常に危険であり、特に注意している点です。

また、ゴルフやサッカーなどのスポーツで例えると分かりやすいと思いますが、慣れてくるまでの間に自分の中に「形」を作ってしまうことが大事だと思っています。基本となる「形」ができしまえば、それを応用させていくことで、どんなモノでもある一定レベルまでは作ってしまうことができます。製造ラインの立ち上げ、量産品の製造、高い技術力が必要な一品生産まで何でも作ることができてしまいます。逆に「形」が自分の中で形成されてないと、新しいモノを作る際、またゼロからスタートしなければならず、時間と労力が掛かってしまいます。弊社では、既に自分の「形」をマスターしているベトナム人も育てており、今はそのベトナム人が、別のベトナム人に教育を行い、技術の伝承の良い流れができているので楽しみにしています。

その他に注意している点としては、日本人があまり多く手を出してしまうと、どんな時でも「日本人に聞かなければいけない」「問題が発生しましたがどうしますか？」といったように全部日本人に頼ってくることになり、「自分で考える」力が身につけません。そのため最近はどうな事でも「あなたたちで考えなさい」と、あえて突き放す

ようにし、どうなったかは報告をさせて確認をしています。

○今後のベトナムでの展開について
同じ敷地内ですが、近年は倉庫として使用していたところを2014年2月に工場として機能させるために改修しました。そこへ新しい機械を3台、大型中古機械2台を日本から導入し、大きい製品でも加工ができるような体制を整えました。弊社では量産はもちろん、一品生産のような高い技術力を擁する生産にも力を入れていきたいと考えています。

一品生産をするには、「想像力」と「集中力」が非常に大事となりますが、ベトナムでは製図をする際に日本で主流である三角法ではなく一角法であったことが関係するためか、創造力が弱いように感じます。また、生産過程において、集中力が散漫であることも散見されます。まずはそのような基本的なことを一つ一つクリアしていく必要を強く感じています。一品生産は、大変大きなプレッシャーを伴いますが、そのようなプレッシャーの掛かる特殊な製品を作ることは技術者にとって、モノづくりの醍醐味が詰まったやりがいのある仕事ですし、高付加価値製品を作ることは、今後のさらなる発展には必要不可欠なことだと考えています。

-ありがとうございました。



製品検査室